

大学コンソーシアムやまがた  
事業計画策定WG（平成21年度第2回） 記録

日 時 平成21年12月11日（金） 13：30～14：30  
場 所 山形大学人文学部3号館1階会議室  
出席者 座 長 下平裕之（山形大学）  
委 員 山下英一（東北芸術工科大学）  
表 實（東北公益文科大学）  
伊橋光二（県立保健医療大学）  
山崎 彰（山形大学）  
横井 博（山形大学）  
欠席者 委 員 今田秀喜（山形県学術振興課）

議 題

1. 第2期大学コンソーシアムやまがた事業計画(素案)について

(1) 前回会議（11/13）以降の動きについて

事務局から、各委員のご協力により、東北地方の大学コンソーシアムとの連携の可能性等について調査を行ったこと（11/25-27）、前回ご了承いただいた「事業計画(素案)」は、事業評価報告書と併せて各加盟校の幹事会委員へ意見照会を行なった結果特に意見はなかったこと（11/26-12/4）について報告があった。

(2) 東北地方の大学コンソーシアムとの連携の可能性について

横井委員から、資料2に基づいて報告があった後、意見交換が行われた。

(3) 第2期事業計画(素案)について

座長より、前回会議の議論及び東北地方コンソの調査を踏まえ、第2期事業計画素案の修正を行った旨説明の後、横井委員から、資料1-1, 1-2に基づき委細説明が行われた。

次いで、横井委員から、第2期事業計画(素案)の実施体制について、これまでの審議では、「部会」から「委員会」に改名されることで検討されてきたが、改名に伴い会則改正等が必要となるため、「部会」と「委員会」の意味合いや位置づけを考慮して「部会」のままで存続してはどうかとの提案があった。その後意見交換が行われ、座長から諮られた結果、了承された。

(主な意見交換は次のとおり)

- 会則には、幹事会や総会の役割などが明確に書かれているのか。
- 素案作成当初、「部会」から「委員会」に変更するに至った際の議論と、部会のままで存続する場合の整合性はとれるのか。

- 加盟機関のスケールの違いもあり各部会の人数を「8名」と特定せず、事業規模や内容に応じて部会ごとに人数を定めてよいのではないか。
- 各加盟校へのヒヤリングでは、多くの機関から広報について力を入れてほしいとの要望が寄せられたが、配分されている予算額でどのような広報ができるのか。
- 東北地方の大学コンソーシアム調査で各地を視察してみて、活動拠点が県からの提供等によるコンソーシアム独自のスペースとしているところが多々あったが、本コンソーシアムでもそのような独自のスペースを持つことについて提案してみてもどうか。
- 東北地方の大学コンソーシアムと連携する場合、目的を明確に設定するべきではないか。
- 素案2-2「2 第2期事業計画」について、「再検討」の表現は意味がはっきりしない。

## 2. 今後のスケジュールについて

座長から、今後のスケジュール（参考資料1）は、前回は承いただいたが、今後、幹事会や総会の審議を経ることになるので、審議結果によっては、本WGを開催させていただく旨説明があった。

## 3. その他

### (1) 次回会議の開催について

次回会議は、必要に応じて持ち回り等で開催することとなった。

## (配付資料)

資料1-1 第2期大学コンソーシアムやまがた事業計画（素案）の概要

資料1-2 第2期大学コンソーシアムやまがた事業計画（素案）

資料2 東北地方の大学コンソーシアムとの連携の可能性について

参考資料1 事業計画の策定プロセス

以上